



## 新庁舎建設 現場レポート③

新庁舎建設工事の着工から、7か月余りが経過しました。今回は、現場レポート第3弾として、基礎工事の施工について報告します。

岐阜市 新庁舎 現場 お知らせ **検査**

### ■建物の基礎

建物の基礎は、縁の下の力持ちとして、建物を支える構造部材です。鉄筋とコンクリートを材料とし、現場で職人の手により造られます。

一般の住宅の鉄筋は、D13（直径約13mm）が用いられていますが、本工事では、D32（直径約32mm）の太い鉄筋を使用しており、防災拠点となる新庁舎を強固に支えます。

### ■基礎の施工状況

掘削工事を最初に終えた西側から、基礎工事に着手しました。

初めに、鉄筋を組み立てます。(写真①)

鉄筋は、通常、掘削底（地中）で組

むことが一般的ですが、本工事では、施工性と品質の向上のため、丘組み工法（地上の作業性の良い場所で鉄筋を組み、クレーンで施工箇所へ移動する施工方法）を採用しています。(写真②)



▲写真②



▲写真①

次に、コンクリートを打設するために、型枠を設置し、コンクリートを打設します。(写真③④)



▲写真③



▲写真④

本工事では、良質なコンクリート品質を確保するため、散水による養生を行うとともに、基準よりも長い養生期間を確保しています。

そして、基礎と基礎の間を土で埋め戻し、免震層の床となるスラブの施工に移行します。(写真⑤⑥)

また、新庁舎の東側に位置する高層部の鉄筋工事にも着手しました。

高層部は、その重量から、マットスラブと呼ばれる特に厚い板状の基礎（厚み2.35m）を採用しています。

マットスラブは、碁盤の目のように、縦横交互に鉄筋を組み、コンクリートを打設します。(写真⑦)



▲写真③



▲写真④



▲写真⑦

### ■今後の予定

今後、免震装置の設置工事に着手します。その後、来年1月下旬より、鉄骨工事（建物の柱や梁〈はり〉などの施工）に着手する予定です。今後も、2021年の開庁を目指し、着実に工事を進めていきます。